

椋山女学園大学における私立大学等改革総合支援事業 を中心とする私学助成を契機とした取組と成果



学校法人椋山女学園

椋山女学園大学
椋山女学園高等学校
椋山女学園中学校
椋山女学園大学附属小学校
椋山女学園大学附属幼稚園
椋山女学園大学附属保育園

学校法人椋山女学園沿革

1905年 名古屋裁縫女学校開校
1930年 椋山女子専門学校開校
1942年 椋山女子専門学校附属
幼稚園開園
1947年 椋山中学校開校
1948年 椋山女学園高等学校開
校
1949年 椋山女学園大学開学
1952年 椋山女学園大学附属小
学校開校
2015年 椋山女学園大学附属保
育園開設

椋山女学園大学の概要	
大学名	椋山女学園大学 (SUGIYAMA JOGAKUEN UNIVERSITY)
設置者	学校法人椋山女学園
開設	1949年6月1日
所在地	愛知県名古屋市千種区星が丘元町17-3 TEL：052-781-1186（代表）
学部等	大学院 4研究科 生活科学研究科、人間関係学研究所、現代マネジメント 研究科、教育学研究科 大学 7学部11学科 生活科学部（管理栄養学科、生活環境デザイン学科）、 国際コミュニケーション学部（国際言語コミュニケーション 学科、表現文化学科）、人間関係学部（人間関係学科、 心理学科）、文化情報学部（文化情報学科、メディア情報 学科）、現代マネジメント学部（現代マネジメント学科）、 教育学部（子ども発達学科／保育・初等教育専修、初等中 等教育専修）、看護学部（看護学科）
教育目的	本学園の教育理念「人間になろう」にのっとり、深く専門 の学術を教授研究し、もって高い知性と豊かな情操を兼ね 備えた人間を育成すること
入学定員	大学院 46名 大学 1年次：1,342名、2・3年次編入：51名
収容定員	大学院 95名 大学 5,474名
在籍学生	大学院 40名 大学 6,032名

私立大学等改革総合支援事業の採択状 況

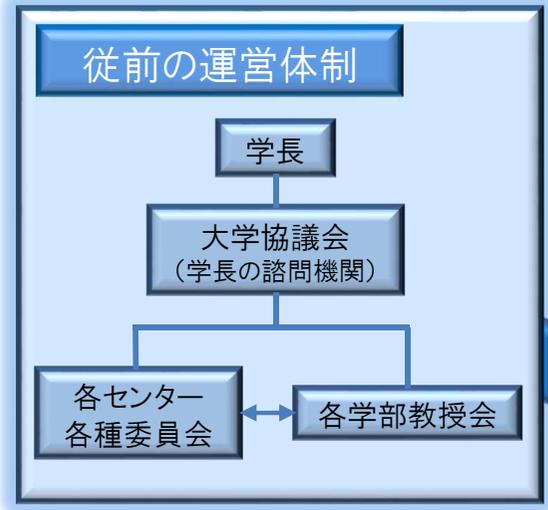
2013年度	タイプ1 大学教育質転換型 タイプ2 地域特色型 タイプ3 多様な連携型
2014年度	タイプ1 教育の質的転換 タイプ2 地域発展
2015年度	タイプ2 地域発展
2016年度	タイプ1 教育の質的転換 タイプ2 地域発展

私大等教育研究活性化設備整備事業の 採択状況

2013年度	タイプ1 大学教育質転換 型
2014年度	タイプ1 教育の質的転換
2016年度	タイプ1 教育の質的転換

全学的な教学マネジメントを始めとする新たな大学運営体制の構築

本学の取組を進展させていく上で組織体制の面で重要であったのは、2014年度から学長のリーダーシップの下に設置した「大学運営会議」である。大学運営会議は、学長、学長補佐、各学部長、事務局部長職等で構成された教職協働組織であり、全学的な視点で本学の課題を速やかに解決することを目的とし、企画、立案、審議を行う大学運営の中心的な組織である。大学運営会議では、大学の中期計画や単年度ごとのアクションプラン（AP）を策定のうえ、それを実施、検証する体制が整備されたことに伴い、アクションプランにおける具体的な実施計画の中で、各施策の取組の実施責任者、担当部署、期限等を明確にしたうえで進展させることができた。



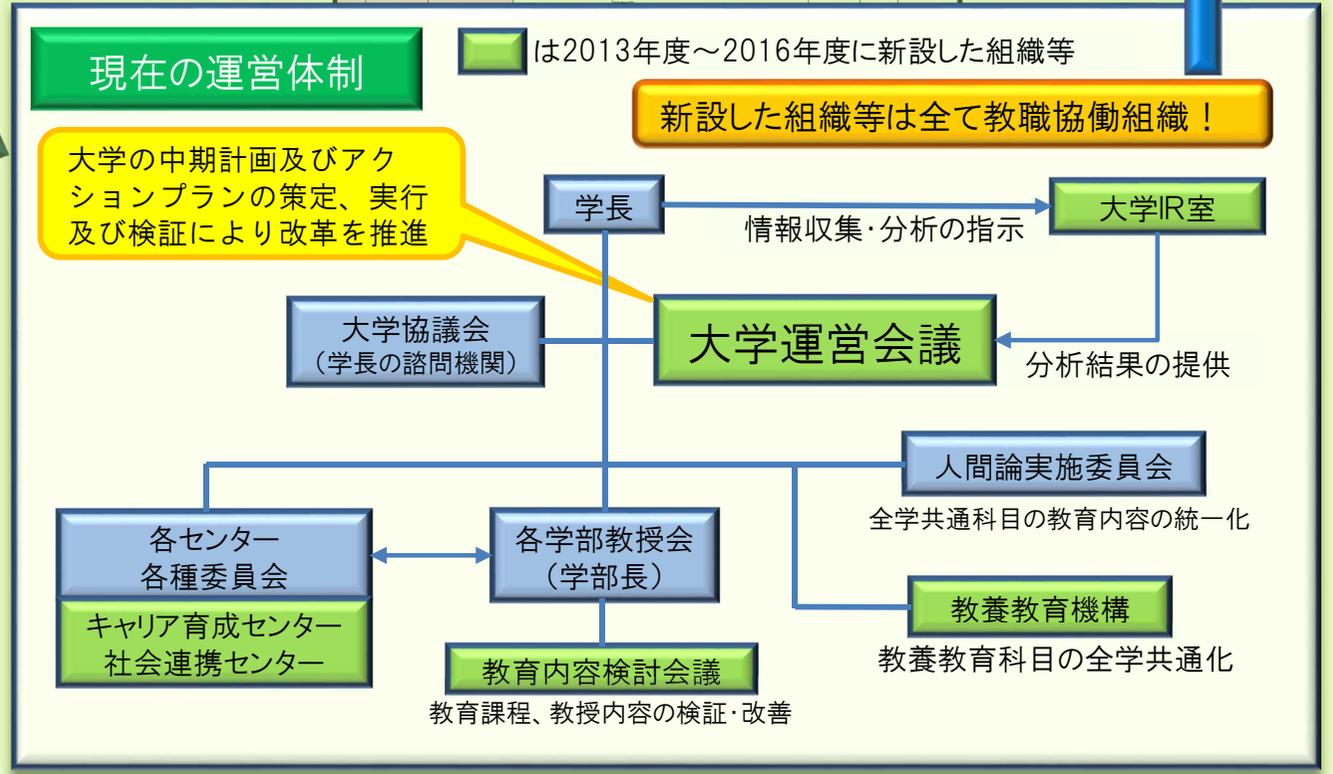
毎年度のアクションプランの内容については、年度当初に「学長メッセージ」として全教職員を対象として説明会を開催して周知

大学全体で改革実行の機運が醸成された

学内に生じた変化

A Pに基づき教育職員と事務職員が目標を共有しながら協働するという意識が芽生えた

- 大学中期計画 第2期計画(平成29年度～平成31年度) ※大項目のみ
- I 教育・研究の質的転換
 - 1 教育理念等の共有
 - 2 魅力ある学部・学科・専攻づくり
 - 3 教員の資質向上
 - 4 高大接続、社会連携、国際連携の強化
 - 5 在学生へのサポート体制の充実
 - 6 教養教育、キャリア教育、生涯学習等の充実
 - II 組織の質的転換
 - 7 マネジメント体制の確立
 - 8 教職員像の確立
 - III 教育環境の質的転換
 - 9 教育環境の整備
 - IV 財務の質的転換
 - 10 安定した財政基盤の整備



タイプ1「教育の質的転換」に係る本学の取組

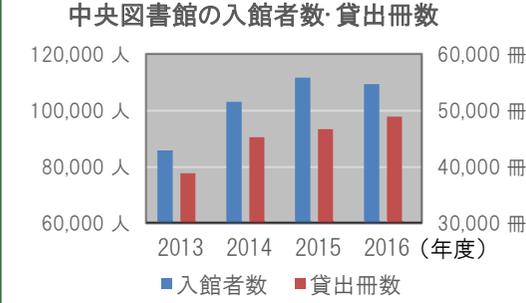
取組内容

- 1 学長をリーダーとする全学的
教学マネジメント体制
- 2 アクティブ・ラーニング
(AL)授業の推進
- 3 図書館ラーニングcommons整備
シラバス記載内容の充実と第
三者による事前チェック体制
- 科目ナンバリングの導入
- 「人間論」と教養教育科目の
教育内容の全学統一化
- 大学IR室による学生の
満足度調査等の実施
- 4 ベストティーチャー賞の創設
- 5 キャリア育成センターによる
一貫したキャリア育成
- 6 本学の使命を明確化した
「大学憲章」の制定
- 7 学生サポーター制度の創設
- 8 入学前スクーリングの実施
- 8 高大接続と入学者選抜
実施体制の強化

左の取組内容のうち主なものを紹介します

2 3 AL授業の推進、ラーニングcommonsの整備

アクティブ・ラーニングの全学的な展開、拡充を図るため、シラバス作成時に授業で行うAL手法を明確化。また、ALに対応した施設等を整備した。2013年度末にラーニングcommonsを設置した中央図書館では入館者数・貸出冊数ともに増加している。



1 大学改革推進のエンジン

大学運営会議

- 全学的な視点で企画、立案、実行、検証を行う
- 月2回の開催により課題に迅速に対応

6 椋山女学園大学憲章

本学の教育、研究、社会貢献に対する使命を明確化した「椋山女学園大学憲章」を制定、大学HPにて公表し、全教職員に周知した。



7 学生サポーター制度

学生同士が支えあい、ともに成長できる機会を提供

- ◆ピアサポーター
- ◆キャリア支援サポーター
- ◆交換留学生スタディメイト
- ◆ライブラリーサポーター



4 ベストティーチャー賞

授業アンケート結果等に基づき、毎年度選出し、その功績を表彰



学生のキャリア育成に3つの側面(キャリア教育<授業>、キャリア支援<講座など>)、体験学習<交流会など>)からアプローチし、それらを有機的に機能させながら、入学時から卒業時まで一貫してキャリア意識の醸成を図っている。学生の成長については、アンケート調査や外部のコンピテンシーテスト、SPI分析結果を用いて学生自身が把握できるよう可視化している。

8 高大接続と入試実施体制の強化

- ◆2013年度から、入試合格者全員を対象とした入学前スクーリングをスタート。
- ◆2014年度以降、併設高等学校以外の6校の高等学校と高大連携に関する協定を締結。今後、大学授業への生徒受入れや教員相互の教育・研究交流等を行っている。
- ◆2016年度から、入学センターの下にAO選抜第1次評価判定会議を置き、入学センター主導による評価・判定を行い、アドミッション機能を強化した。

※AL授業は、全授業科目(3690科目)のうち、グループワーク、ディベート・討議、フィールドワーク、プレゼンテーション、評価・振り返り、ワークショップ学習、PBL、反転授業、課題研究のいずれかの手法を一つもしくは複数組み合わせる授業を指す。

教育の質的転換に伴う成果：学生の変化と社会からの総合的評価

私立大学等改革総合支援事業による助成を受けた取組を中心とする本学の様々な分野での改革により、教育の質的転換が伸展し、授業内容・方法の改善によって学生の成長が促され、その結果として就職先企業からの評価が向上するなど、本学に対する社会からの総合的な評価が高まっている。

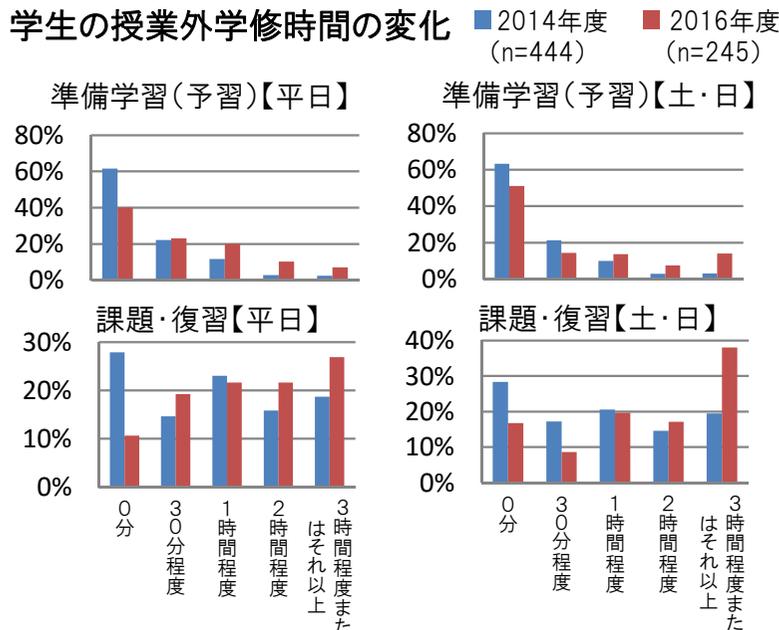
AL科目数の割合の変化 (%)



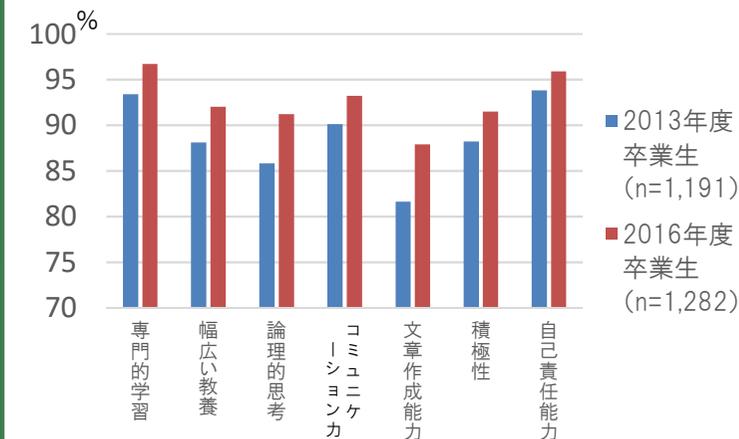
AL手法を取り入れた授業科目の割合は、改革総合支援事業実施期間の前後で上昇している。また、予習・復習に伴う授業外学修時間も伸長している。

※授業外学修時間の調査は当該年度1月下旬の特定日について1日当たりの学修時間数を尋ねた。

学生の授業外学修時間の変化



キャリア教育に関するアンケート結果(主要項目)



学生への卒業時調査で、身に付いた能力等の満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)の自己評価が向上している。

社会からの評価

- 【実就職率ランキング(サンデー毎日 2017.8.6、大学通信調べ)】
 - ・卒業生1,000名以上の全国の大学で**24位**、全国女子大で**3位**
- 【大学ランキング2018(朝日新聞社AERAムック)】
 - ・公務員試験合格ランキングの都道府県、市区町村職員(教職員などを除く)の採用数において全国女子大で**2位**
 - ・キャンパテナンダント採用ランキング(2016年度)において中部地方で**2位**
- 【女性社長の出身大学ランキング(帝国データバンク名古屋支店発表 2017.6.12)】
 - ・愛知県内の大学で**2位**
- 【大学探しランキングブック2017(大学通信)】
 - ・社会人が選ぶ「自分の子どもに入学してほしい大学」において全国私立女子大で**1位**
 - ・進路指導教諭が選ぶ「生徒に人気がある大学」において東海・北陸の女子大で**1位**
 - ・受験生が評価する大学(全国編)の「女子に人気の大学ベスト50」において愛知県私立大学で**2位**
- 【進学ブランド力調査2017(リクルート進学総研調べ)】
 - ・東海エリアの女子高生からの志願度において東海エリア209校(国公立大学を含む)の中で**6位**

就職率・実就職率・求人数の推移



就職率、実就職率及び求人数のいずれも順調に推移しています

本学のインターンシップ学生への企業からの評価(2017年度)

- ・インターンシップ期間を通じてコミュニケーションをとり、自分の意見を言えるようになる等、チームの中で仕事をする基礎ができていたのが良かったと思います。
- ・物事を理解しようと積極的に質問し、活動的であった。
- ・周囲の状況を把握し、次に何をしたら効率がよいか考え行動していた。
- ・物事の本質を理解し、チームが前へ進めるよう決断をすることができていました。
- ・自分が将来何をしたいのかがはっきりしていました。
- ・常に誠実な態度で臨まれていたことについては、高く評価でき関心いたしました。
- ・礼儀、あいさつ、マナーがしっかりしており好感を持った。
- ・グループ発表においてはリーダーシップを発揮し、他の学生をまとめていた姿が印象的でした。